京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十三年 紀元二千五百七十年

本紙定價 ▲一枚金二錢▲一ヶ月前金卅五錢▲三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵税一ヶ月十三錢

月曜日及び大祭日の翌日は休刊（日刊）

廣告料金 ▲五號活字十七字詰一行一圓金五十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢

發行兼編輯人 高木久馬太
印刷人 松久紳一郎
京城西署西小門通（電話六六二）
發行所 京城新報社

内外塵鏡

一記者

[illegible]

して三百金を収め得るのみと嘲つは、昨日今日聞くことでない、這も亦月花に憧るゝ人の心の爲す業ぞ、若聞きはさて人の心のはぶれたることかな、なんぞと云ふは、吾輩今日の約束にあらず、可憐興を我から殺いだ、が短散の影、彼れ机に筆を兇せたまゝ是程の行樂を試みて何だッヤラヌといふ者はあるまい

雜報

北韓航路の改良

北韓開發が遅々として進まざるは京元鐵道の敷設なく京城との連絡の海路に依り遠く釜山より迂回せざるべからざるのみならず航海遅緩及び不確實なるに因る今や京元鐵道敷設の議漸く決せられたるも汽車の運轉は尚數年の日月を要すべくそれまでは是非とも海路に依りて旅客及び貨物の輸送をなさゞるべからず今日の所にては北韓の航海に從事しつゝあるものは神戸の川崎、大阪商船日本郵船、大阪の田中、原田、元山の吉田、大韓協同及び平御用船等にして都合十八隻なるも其の發着極めて不確實なるが爲其の間隔一樣ならず釜山元山に四十二年度には八日一回の寄船と六日一回の寄船あり本年の一月には七日一回の寄船ありたる等不便尠からざるより元山の商業會議所及び元山郵便局等にては從來の航海に一層の改良を加へて發着の間隔を平均ならしむると同時に敦賀、元山、清津の三角航路開始を現實せんとの議を立てつゝありと

迎日灣の漁況

▲鰤漁業 前月に引き續き時々魚群の回游を見たるも其の群稀薄にして見るべき漁獲なかりしが月の九日より風力强以上の西北風に變じ十一日に入りて益々猛烈を極め波濤伸ふて起り十四日に及びて稍沈靜に歸し海水の混濁するや漁群灣内に充滿せるも時や既に晩期に屬し定置漁具にありては其の殆んど撤て其の十一月中旬以降海中に定設せる外樹網、浮子網等は堪久力を經過せるもの多くさなきだに當期中の最も猛烈の風浪に遭遇しては辛ふじて本綱の切斷流失せざるを僥倖とする外は能く全形を保持するものなく僅かに之れありしは前途を樂觀し中間其仕替を爲したるもの一、二ありて能く其の波濤に堪ゆ一網五六回より十一二回價格百五六十圓より三百圓の漁獲を得たるは四五統にすぎず又刺網によりては其大半漁業終了せるを以て引揚げしもの多く僅かに地元漁業者の出漁せるものありたるも余波尚高きが爲に作業に困難を感じ十分の漁事を遂行することを得ずして並に當期の漁業に告別を爲せり而して當期の總漁獲高は約十万圓にして平年作に對しては五百圓許りの減取となれり

▲河豚延繩漁業 鰊漁業より寒季漁業に渉る間漁に屬し灣の内外に於て漁業に從事せる漁船は六七隻にして一日の漁利は百尾より三百尾許りにして價格一尾三錢四五厘にて專ら韓人に賣買せり、其他にありては長崎縣より月末に至り潜水器船七隻來着し目下ナマコ採捞の準備中也

●牛皮の輸出と改良

牛皮は韓國重要の輸出品にて明治二十五年より昨四十二年に至る十八ヶ年間の統計に依れば二十五年に於ては二十九万一千〇八圓の輸出あり其后多少の消長ありたるも三十三年に至りて六十二萬余圓の増加を示し現今に於ては此趨勢を持しつゝありて昨年迄の平均額五十五万二千二百十三圓なるが其仕向地は重もに日本にして一小部分は清國にも輸出せり然るに韓國の牛皮は剝皮法及乾燥法の粗雜なる爲め皮質を毀損し廢棄の部分多く爲めに價額を低落せしむる實況なれば其筋にては京城官立屠場に於て改良方法を施したるに成績頗る良好なるを以て之れを全國に普及せしむる筈なりと云ふ

地方電報

▲平壤通信

▲觀察使等の教育演説 平壤李觀察使及び郡守等を始めとして平壤韓國官民の重なるものは十一日夜普通學校内に於て教育演説會を行ひたるが來會者は學生の父兄等約一千餘名にして頗る盛會を極めたるが昨夜も尚ほ引續き同校内に教育演説會を催したり

▲公試運轉と給水 平壤水道局事務所にては去日水源地に於ける取水機關及同地より乙密台へ押揚するポンプの試運轉を行ひ良好の成績を得たる事は既報の如くなるが同局事務所長兩角技師は右事に關する報告及今回來壤當地に於ける水道工事の實況を視察する事となり居れる川上工學博士の出迎を兼ね目下上京中なるが多分今明日中には歸任すべく其上は同博士の立合の下にあめて正式の試運轉を行ふ筈にて之が完丁次第更に市街に於ける鐵管の掃除を爲す筈なるが右は多分一週間を要すべく斯て本月下旬よりは一般に對する給水を開始する趣にて當分は無料にて供給すべしと云ふ因に其の料金は六月頃より徴收すべしと

▲手形組合近況 平壤手形組合所に於ける近況を聞くに本月一日より十日迄に至る保證額は一萬三千六百圓同支消額は一萬千百圓前月末現在額は十九萬二千八百九十圓六十七錢本旬末現在額は十九萬三百九十圓六十七錢本旬末保證現在額は先旬末に於けるものに比し二千五百圓の減少なるが保證額に就ては當分は著しき差はなかるべき趣きにて樂觀し保證の申込者あるも同組合所に於ては十九萬圓内外に止むる方針なりと云ふ又保證金額の支途別に就ては栗は三分の一雜貨金三分の一等の由なるが保證期限に就ては昨年北韓元山の不作なりし爲め當地方より之に輸出方面は栗の不作せらるるもの多くして之が取引に就ては同地方に金融機關の存在する土地は貸付等の便利あれば好都合なるも之等の機關なく又は取引先に支店等の設置なきもの多ければ概して長期なるが多く同組合所の保證の最長期間三箇月に對する二箇月以上にわたるものありと云ふ

◎新刊紹介

▲日本經濟新誌▼（七卷一號四月三日發行）澁澤榮吉氏の米價論は如何に結ばるゝかは見物なるべし（定價十三錢日本經濟新誌社）

▲サンデー▼（七十號四月三日發行）例に依て面白し（定價十錢京橋區週報社）

▲大阪仕入案内▼（三年三月號）自ら商家の羅針盤と稱す（定値十五錢大阪仕入案内社）

▲韓國經濟月報▼（第一號度支部）

日本銘刀傳

第九十一席 **法城寺正弘**（十三） 邑井一講演

扨て三浦屋では、孝行娘のたみつをば別段見世へ出して稼がせやうと云ふ氣もなく、俠骨を悟る、四郎左衛門の何より樂しみ、雪が降るとて腰折一首、花が咲くとて誹諧句に紙や短冊を致し度と、持つて住かれるのも心嬉しく月日の過つたも知らぬ間に、早五ッ年の星霜は經たりき、然るに其頃時の病の痛く流行で、家内中枕を並べ、藥の力を借り、果ては一家が葬禮が二つ續く三つ續くと云ふことの多くありて、吉原へも其病氣の流行が來て、三浦屋にても抱への遊女さへ二三人、此病氣にて斃れ、四郎左衛門も傳染りて大熱の往來烈しく、吐瀉頻りにして、此世の人と思はれぬ程なりき、去れば見世の景氣も大いに寂しく、客人の足の繁からぬ有樣なり、たみつは四郎左衛門の枕邊に來りて 光「旦那樣、如何です、少しは心宜うございますか 四「ア、れみつか今朝は粥も吸られたし、熱も少しは下つたやうだ、此工合なら何うかなるだらうと思ふよ 光「夫は結構れ見世の花魁達が少ないので、何うも客樣の氣受けが能くないと、噂場で番助さんの話夫れに只今の所では好い玉がないとか云つて居る事を聞きました、私迚も別段人に勝つては居ないことは能に向つて知つて居りますが、枯木も山の賑かしとか申しまする、夫れに最初から私も大それた娘になつて、此御家の跡目を相續するならんと云ふ大きな希望は致しません、親の爲めに苦界に身を沈め、其金で父が何うやら斯うやら店も元の樣になりました、御恩報じが出來ませぬ、何うか私を見世へ出し下さいましたら、一生懸命にれ客を扱ひ評判も取りましやう、年頃になつて何時までも御厄介に許りなつて居りまするのは心苦しうございます 四「れ光、れ前が折角さう云つて呉れるけれど、此三浦屋が養女を店へ出したと云はれちやア私の名に關はる、何うか其樣な心を起さずに居て貰ひたい み「成程、養女を店へ出したと言はれちやア名前に關はりませうが平生の譏ではなし、惡い病が流行て店の妓が死んで寂しくなつたのでございますから、別に恥かしいことはありませぬ、是非店へお出しなすつて下さいまし」と強て申します、四郎左衛門も口でこそ立派なことを言ふものの、心のうちではもう此の店も閉ぢねばならぬかと心配して居た所だから、己ひを得ずれみつの言ふが儘に名を花扇と付けて店へ出した、女は器量も性質も好し、評判が大變に好く忽ちのうちに客足が付いてドンドン三浦屋が繁昌することになりました、是れが爲めに四郎左衛門の病氣も全快するやうになつた、然しいくられみつとても人間であります、堅い子ではありますが情と云ふものれには勝てない、或日フト登樓して花扇を相手にした客人は年はまだ廿三四の若者なれど、武士に似合ぬ優しい方、言葉が東北辨のズーズーでありますから少し花扇の胸に障ることがあるので、段々と名を聽きますと島田重太郎と云ふのだとのこと 花「オ、主は島田重太郎はんと言はんすか 重「オ、俺は島田重太郎と云ふんだ 花「左樣でありんすかそんなら若しや仙臺樣の御家來ではありませんか 重「ウム、左樣だ、何うして分かる、尤も私の言葉で大分仙台だらうと推察したんだらう 花「イエ、左樣ではござんせん、夫れでは御父樣のれ名前は重左衛門樣と有仰りは致しませんか 重「ウム、其通り〳〵、何うしてれ前は夫れを知つて居るのだ 花「アヲさうでござんしたか、れ懐かしうございます、妾は其の重左衛門樣に大恩を受けたのでありんす 重「左樣か、夫りやア何う云ふわけだ 花「忘れも致しません、妾がまだ本名の花で淺草の田町に親と共に居りました頃、毎夜々々物神稻荷へ親の病氣全快を祈りに日參を致しましたところ、或日一匹の大犬が出て吼付きました、スルと忽ち數十匹の犬が現はれて妾へ吹付き、何うにも斯うにも仕樣がありませぬ、所へ立派なれ武家が御通掛りになつて、其犬を追拂つて下すつたのが、貴方のれ父樣



東京電報

▲三相の鳩首密議

桂首相は閣議散會後寺內陸相小村外相と鼎座して長時間に涉り何事か密議を凝したり(十三日)

▲我陛下の御謝電

天皇陛下には伏見宮殿下に對する韓皇帝の御優遇を聞し召され本日鄭重なる謝電を發せられたり(十四日)

▲三相密議の內容

既電桂、寺內、小村三相の密議は寺內氏が片瀨に曾禰統監往訪の結果に關するものにして寺內氏は一兩日中再び曾禰統監を往訪すべし(同上)

▲爆彈事件の其後

淸國政府は戒嚴令施行後極力檢擧に努めたる結果已に有力なる犯人發覺するに至り且つ犯人系統の如き明白となりたるも政府は今尙は極めて秘密に附しつゝあり更に進んで南淸方面に散在せる革命黨員を檢擧すべき形勢ある旨某所に密電ありたり(同上)

▲公債割當と協議

第二回內債借替應募は一億五千萬圓に達し本日より東西シンヂゲート協議會を開き割當其他に就て協議十九日迄に發表すべし(同上)

▲委任經理問題

當期議會の重大問題たりし陸軍委任經理は當局者の言明する處にて自ら各師團の步兵騎兵砲兵聯隊工兵輜重兵大隊共委任經理に基く積立金少なきは二萬圓乃至五万圓を有し各師團を通算するときは總額四百万圓に上るべく之等は日常兵士の賄被服馬匹の消耗品を節約したる零碎の額が集まりて此巨額を需せるものにて而も之が多寡は經理の巧拙を表はす標準となるを以て競ふて積立金を多からしめんとするの風あり此傾向にして益す助長するならんか恐るべき弊害を釀成するに至るべく忽諸に附す可らざる大問題なり(同上)

▲非募債主義の破壞

四十三年度鐵道敷設費金として大藏省預金中より一時借入支辨する事に決定したる財源は鐵道社債の支拂殘額一千五百萬圓にして主として內地鐵道の建設改良費に充てんとするものにて韓國京元湖南兩線の敷設資金も亦鐵道の利益配當として政府の受くべき二百五十万圓を之に充用せんとするものなれども湖線に於ても安奉線工事進捗し伴ひ漸次財源を要するより近き將來に於て議會の協贊を經たる四千萬圓の公債募集を行ひ之を預金部に預入彼此遣繰せんとするものにて即ち桂內閣の非募債主義は事實に於て破壞せられたるものなれば政友會の主張たる鐵道財源は公債に依らしめん建議は四十四年の豫算編成に當り是非共採用せざるべからざるに至らんと(同上)

▲憲兵司令官の渡韓

憲兵司令官陸軍中將谷田文衛氏御用有之急遽渡韓を命ぜられたり(同上)

▲獨大使と早稻田

獨逸大使ムム男及前駐日大使ホルデーンの兩氏は本日大隈伯の招待に應じ早稻田大學を訪問し各々一場の講演を成したり(同上)

▲都筑男爵の病狀

男爵都筑馨六氏は病の爲め興津井上侯別邸に靜養中なるが經過宜しからず大澤博士も診察の爲急行せり(同上)

▲石黑男爵の渡韓

日本赤十字社常任議員石黑忠悳男爵は社業視察の爲め來る二十一日東京出發渡韓各地を巡廻し六月下旬歸京の筈(同上)

▲地價修正規則發布

本日の官報を以て宅地價修正規則發布せられたり(同上)

▲內債借替の景氣

第二回內債借替は愈々明後十六日を以て決定すべきが今日迄の申込は約一億五千萬餘圓にして現金申込三分公債代用七分の割合なり(同上)

▲薩摩艦と鹿兒島市

今回竣工したる軍艦薩摩は玖波に向け航行の途次二十八九日頃鹿兒島港に寄港する筈なるが右は同艦の艦名が薩摩なるに因み鹿兒島縣民が同艦の廻航を乞ひ軍艦寫眞並に薩摩燒瓶一對を獻納したき旨を申出でたる爲め之が受領の爲めなりと(同上)

▲外交官一部の更迭

副領事吉岡彥一氏頭道溝分館在勤を命ぜられ領事官補渡邊正三氏上海領事館在勤を命ぜらる(同上)

▲名古屋開府紀念祭

名古屋開府三百年紀念祭は本日第三師團東練兵場に擧行さる參拜者數万人にして特に伊太利軍艦カラブリー號艦長以下乘込員將校八名參拜したるは異彩を放てり(同上)

▲全國鑛山會議召集

農商務省にては來る二十日より約一週間全國鑛山監督局所長を召集し來年度業務計畫豫算分配其の他の打合せを爲す筈(同上)

▲フランク氏の來遊

上海東亞ロイドの主筆フランク氏は嵐船キヨセン號にて來る十六日橫濱に到着すべし(同上)

▲小野鵞堂氏の長逝

漢詩界の泰斗著作大家にして有名の書家小野鵞堂氏は病の爲め千葉縣天神山の別莊にて長逝したり享年九十七歲なり

歐洲電報

▲英露兩國の通牒

英露兩國政府は列國に通牒を送りて波斯政府は第三國の通商利益を尊重するも自國の政治上及び戰略上の利益に背戾するの事項は一切認めざる旨を通知したり(十三日)

紐育電報

▲南米の戰雲愈急

南米秘露國とエクワドル國とは國境問題に關し戰期愈熟し秘露は陸海軍に對し動員令を發したり之れに關し從來屢々仲裁の勞を取れる西班牙皇帝も其の效なきを覺り自然の成行に委するに決定したれば茲一兩日中一大開戰を見るに至るべし(十四日)

雜報

取引所設立の理由

取引所設立發起人は理事官の希望に基き物資集散の槪況を調査し設立理由書と共に十二日提出に及びたるが今其理由書の全文を見るに左の如し

韓國產物需給集散の中心たるべき一定の市場なき爲に時價の準據すべきものなく賣買兩者共に暗中摸索の感なき能はず隨つて日常取引の圓滿を缺き商機を逸するのみならず年々金融の逼迫を告ぐるは畢竟賣買機關の不備に胚胎せるものにして其間生產者及び商工業者の不利不便尠からず延いて韓國產業の發展を阻碍する事頗る多大なるものなり若し是等重要物產の賣買機關として取引所を設置せんか

一、內外市場の需給關係により日々相場の高低を明かにし賣買者双方隨時所要の數量を取引し易からしむ

二、從來內外需給の關係不明なりし爲め其間に介在して不當の利益を貪り得たると同時に契約不履行等の場合尠からざりしが設置後は是等の損害を受くるが如き恐れなく日々市場の公定相場に準據して時々刻々賣買の掛引を爲し得べきを以て內外遠隔の商況を明かにし且其取引を容易ならしめ輸出入に敏捷圓滑を來す便あり

三、生產者は製品の未成中に在ても高價の時期に於て豫定の商品を賣却し得べく又買收者に在ても其需要の見込により隨時豫期の數量を購入し得るの利あり

四、從來母國輸出上頗る危險を感ぜし價格の變動を調和し得るが故に母國商人に在ては豫期の相場に逢着せば一電以て之が買約を爲し得べく又在韓輸出業者に在ては繫賣買を爲し得る等距離的關係の爲に釀生し易かりし不意不測の損耗を除去するの利あり

五、有價證券取引に就ては韓國の舊慣として浸染せる不動產尊重の感念を減して地價の暴騰を防ぎ文明的產業に放資するの利益を知得せしむると共に金融を圓滑にし金利を低落せしむる爲め個々各種の生產費を節減し以て產業の發達を助長せしむるの利あり

以上は唯だ其梗槪に過ぎずと雖も尙且つ從來各營業者及生產業者の受け易かりし損害と之れに伴ふ危險を輕減救濟し得る結果として產業及商工業の發達を助長するの效果蓋し鮮少ならざるべし如上の理由に徵するに韓國に於ける商工業經濟の中心たる京城に取引所設置の一日も閑却すべからざるの急務なる事亦多く言ふを要せず是れ今回取引所設立認可を申請せる所以なり

第二艦隊の解纜

仁川に碇泊中の第二艦隊八雲、見島、沖島、淀の四隻は豫定の如く十四日午前九時鎭南浦に向け解纜せしが之より先き橋本副理事官、岩崎民長、和田觀測所長、青木商業會議所副會頭、江木憲兵分隊長は旗艦八雲に島村司令長官を訪問して挨拶を爲したりといふ

●公判開期と辯護人

別項李在明に關する犯行調書は數千枚の多きに達し頗る浩瀚に亘り居れば之が査閱に就ても尠からぬ日子を要すべく且つ韓國人に關する裁判は必ずしも辯護士を必要とせざるも若し其申請あらんか辯護權を尊重して之を許可するを以て辯護士よりも書類の閱覽を乞ふべく旁々公判開廷期は容易に之を定め難き事情あり故に早くも本月末遲くば來月中旬頃ならんと云ふ因みに十四日日本人辯護士より一名內交涉を申出でたりと

●勸業技手技術配置

內部に於て今回任命すべき勸業技手の道別及其技術方面は左の如く決定せり

京畿道	養蠶技手	一名
忠淸北道	農業畜產	二名
同 南道	蠶業兼農業	一名
全羅南道	農業及蠶業	二名
慶尙北道	農業林業	二名
江原道	農業兼蠶業	一名
平安南道	農業兼林業	一名
平安北道	農業兼蠶業	一名

●李在明公判係判事

兇漢李在明及連累に關する檢事局の起訴狀及一件書類は十三日地方裁判所刑事第一部へ廻付されたる由にて目下同部にては之が調査及公判開始準備中なるが該裁判所に於ける刑事は元來一部なるのみなれば之が係判事は裁判長塚原判事陪席谷、鄭兩判事なりと云ふ

●勸業技手と地方費

地方に於ける勸業行政は從來殆んど閑却され僅かに農商工部より國庫支辨の技手三名を派遣し在るのみなるが內部は本年度地方費に當該費用を計上せしめ不取敢十一名を採用するに決し本月中には發表せらるべき筈なり

●韓鐵吏員被淘汰者

既報の如く鐵道院は愈々淘汰を實行したるが其結果韓國鐵道管理局に於ける高等官の休職となりし者左の如し

富田勝三郎(副參事)小原爲(參事補)
三浦虎平(參事補)福田勝(技師)

●天道教講習所設立

平安南道德川天道教は知識啓發を目的とする普通學の講習所を設け所長學監監督教師等數名を擧げたりと云ふ

●家屋稅施行地改正

十三日勅令第廿七號を以て家屋稅施行地を改正し隆熙四年度分より施行さる

●參謀長より謝狀

仁川民團より第二艦隊乘組員に對し宿泊の便宜を與へ亦は入浴券及び活動寫眞觀覽券等を寄贈せし厚意に對し高木參謀長より民團に丁重なる謝狀を贈り越したりと云ふ

經濟小言

日本銀行京城派出所は第一回四分利附借替公債を賣ることに勉めて見たが一向に申込者が無かつた、ソレモ其筈月三分の金利と年四分の公債とは到底結婚は出來ぬ。

度支部對東拓驛屯土引繼問題も古いものだが未だに完了して居らぬ、總會を眼前に控ながら何と云ふ事だ驛屯土で思出した東拓監事野田大塊氏は目下來城中だ、氏の談なりとて傳はるところに因れば總會後の東拓は社員及び役員の數を半減するとの事だ、イツコも同じ行政整理月給取には心配が堪ぬ。

京龍兩民團合併の曉には百萬圓程の團債を起して大々的市區改正街路改築等をやるのだツーだ、ホントにソウなら吾人は合併にも募債にも賛成する。

度支部は其釀造所に於て試驗せる藥酒を賣出した、品質は中々良く直段も三合入一本十錢と云ふ格安だ、之れで引合ふなら他日造石稅を課するにしても將た專賣にするにしても僅かに一の財源にすることが出來る。右に關し可笑しいのは從來酒の小賣業者へは卸屋から酒を卸すと同時に酌婦を供給することが商習慣になつて居る事だ、度支部にして官釀の藥酒を幾ら安く卸しても酌婦を供給せざれば小賣業者は商賣上歡迎が出來ぬツウだ。

●豫備金支出裁可

匪徒被害者遺族給與金千圓豫備金より支出件裁可さる

龍山 遊廓問題眞相(續)

(本社龍山支局報)

民團議員林武之進氏曰く、予が大久保民長と私交あるは事實なり然れども勸農會社の爲め大久保氏の意を承けて民會に於て決議延期の動議を提出したりと惱らるゝは甚だ以て心外千萬なり身不肖と雖ども苟も議員の一員として私情の爲めに公事に關する是非の見を曲ぐるものにあらず予は原來遊廓地擴張を可とするの意見を有する者なり而かも大村議員等の所說の如く畑氏に對する總ての債權者の意思を顧みずして可否を決するに於ては却て畑氏の爲めに不利益なる結果を生ずる無きやを虞れたり萬一畑氏に不利益なる事情を生じたりとせば畑氏が這回請願せし處暇し許可せらるゝとも得は失を償ふ能はざるべし予は意を潜めて這般の消息を研究し決議延期の動議を提出せり尤も予が民會に於て朝鮮日之出新聞の記事に對する勸農會社の正誤文を援引して同會社が野中推弘氏に交附したる株式會社組織同意書の有るに拘はらず當事者間の意思疏通を欠く處ありとし之れを理由として決議延期の動議を提出したる事を以て或は予が勸農會社の意思を尊重すること分に過たりとする者あるやも知れず予が大久保氏の意を承けて勸農會社に忠勤を擢づるものなりとせば民團側も此間に胚胎せる無きを保せず然りながら予は龍山に遊廓を置くの必要を認む隨て四團の事情許す限りは其經營を容易ならしめんことをこそ思へ彼の竹內議員の如く膠もなく數字を列して可否を決せんとするが如きは不景氣の風吹荒める龍山の現狀に顧みざるものと思惟すれども予にして一勸農會社に左袒するの意あらば予は無論竹內氏の抽象的議論に贊成したしならん然かも予の此に出でざりしは予が心事外間傳ふるが如く陋劣ならざるを諒とせよ云々

此記者は竹內氏と論據を異にするも遊廓地擴張を不可とするの意見を有するもの此の點に於ては理由は兎もあれ勸農會社のそれと一致するやも知れずれども彼の日之出新聞所載の同社が正誤文を見るに附署債權者二十餘名某所に會合し種々協議を凝らしたる結果云々」とあれども本社は曾て如斯會合に加はりたる事更に之れ無く又「此際債權者一同に於て妥協を爲し債權額を出資額に充て合資會社組織とし云々」とあれども素より本社は斯る協定にも加はりたること無し(下略)」

あり記者の知る處を以てすれば同社が野中氏に交附したる同意書は合資會社にあらずして株式會社を組織する事にて且つ債權者會合して協議の結果一同野中氏の意見に聽きて同意したるものなれば正誤は道理至極せりかも野中氏に交附したる同意書とは等の關する節無きに非らずや若し關するもの之れ有りとすれば野中氏に交附したる同意書の旨を正誤文に明記せして勉として其の同意書なるものが實同社の作製せしものなるやを疑はしめたること換言すれば即ち他を誤解に導きたる事のみ固より正誤文に明記すると否とは同社の勝手なれども同社を不行届若しくは陋劣なる手段を弄して故意に他を誤解に導きたるにあらずやとの推察を爲すは其の之れを爲す者の勝手なり記者も亦如斯推察を爲すやも知れず貴下は正誤の文意を正しく解釋したりと信ずる乎を問へり然れども林氏は此の問に對して明瞭なる返答を與へざりき

附記明日の紙上阪敬明氏の此の問題に關する意見と併せて氏に關する瀨迷の說を記さん

●米國領事館晩餐會

十三日夜米國領事館に於けるロ氏一行歡迎晩餐會は夫人病氣の爲め一時中止となりしが斯ては甚だ遺憾なりとて夫人も强て出席する事となり俄に開催せし次第なるが來賓はロ氏一行の外重なる外人にして日本人側よりは石塚長官三浦理事官市原韓國銀行總裁津輕囑託三浦夫人津輕夫人等出席されたりと

●ロ氏一行の出發期

來京中のロビンソン氏一行は夫人病氣靜養の爲市中見物等も見合せ十四日も旅館に引籠り居れるが出發も其爲未だ確定せざれど多分十六日頃なるべしと

●會議所の豫算會議

京城日本人商業會議所四十三年度豫算は委員附托となり十三日の委員會にて原案に多少修正を加へ報告せしが十四日之に基き總會を召集して付議する由

●特許審査官の出張

統監府特許局審査官杉田金之助審査官補神野金之丞兩氏は福岡、大坂、名古屋、東京の各地へ十四日附を以て出張を命せられ何れも兩三日中出發の豫定

●岡正矣氏の赴任期

今般鐵道院總裁官房に轉任したる岡正矣氏は後任三本武重氏廿日頃東京出發赴任の筈に付き廿五六日頃事務の引繼を爲し同廿八九日頃出發赴任すべしと

●金融組合理事入京

吉井義州、內田松禾、山根安州、高槻瑞興、引瀨馬山、中村光陽、武田价州の各金融組合理事は何れも十三日入京

●順川郡の篤志韓人

平安南道順川郡の車正環なる者は夙に私財を抛ち學校經營を爲し居れるが今回道路修繕の爲金四百圓を寄付せしと

●五高同窓會の開催

熊本第五高等學校出身者の組織せる五高同窓會は來る二十一日を期し龍山入散園に於て第五回同窓會を開く由なり

●武田少將等の入京

武田平壤鑛業所長は齋藤海軍主計大監を從へ十三日入京し天眞樓に投宿せり

●司法部長官の歸任

帝國議會政府委員として東上せし倉富司法部長官は十四日夜南大門着歸任す

●渡邊素夫氏入京

江原道警察部長の同氏は十二日入京不知火旅館に投宿

●澁谷太吉氏歸任

入京中の太田農銀支配人の同氏は十三日出發歸田せり

●有本辯護士出發

入京中の辯護士有本鐵次郎氏は十三日鎭南浦に向け發

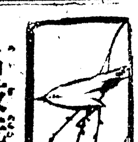
龍山通信

(十四日支局發)

▲マニラ駐在米國軍人ウヰリアム、マツシユー氏は十四日新義州發京都に向へりとの報同驛より鐵道管理局に通知ありたり▲十四日鐵道技師遠藤吉氏新義州より歸龍▲平壤鑛業所長武田少將は十四日釜山に向け同地を出發せり▲噂の如く鐵道院實員の淘汰發表されしが韓鐵管理局にては參事補三浦虎平小原爲、副參事富田勝三郎技師福田勝氏等十二日休職を命せられたり▲義州府尹一行十一名は福岡なる共進會見物の爲め十四日同地を出發せしが更に本美驛より二名一行に加はり同日南大門着兩三日滯在の上福岡に向ふ由

▲沿外誌欄▼

或閑人の勘定によれば曾禰統監の病氣に就て今日迄に當地に來た電報の數は五千八百音信だソウだ、之を一音信三十錢とすれば一千七百四十圓だ、尤も新聞電報は半額だが夫れにしても一千圓は慥かに費つた、曾禰さんの病氣は良くなつたり、惡くなつたり、良くなつたり、惡くなつたり、今後六ケ月も辭任せずに居らない、其タンビに電報を打つから堪らない、トパッチリが韓鐵に迄及んだ、併し斯は第一回の整理で第二回が近々發表さるゝとの事だ、遠莫韓鐵從事員は目下戰々兢々の姿だ、近き中に秋風嶺邊りで脫線が無ければ良いが▲墺國皇帝ヨセフ陛下はルーズベルト氏に與ふるに國王の待遇を以てするツーだ、ルーズベルト氏茲に於てか異に無冠の帝王となるのだ▲大島關東都督は始の氣勢に似ず愈逆戻りをやつた、事情は察すべしだが惜むらくは好漢擧丸を捨てた▲日の出町小學校の生徒に統監とは何ぞと尋ねたら胃痛の親玉だと云つた、而らば各部次官はと尋ねたら轉任口を探して居る動物だと云つた▲曾て本欄に書いた小松、鈴木の兩事務取扱はトーに本官になつた、只り石塚君のみ今に殘つて居る▲曾禰さんが辭職するとすれば誰々が殉死するか、石塚君は勿論殘る、君は會津人だ、ソウして閥は準藩州だ。



名妓洗髪の七妻(八)

▽披露目は廿六年の七草　▽贔屓に贔屓られて大難

飾り色々な事を云はれ物ですから、私もツイ義を見に行く氣になり其上藝者にならねばならぬ羽目に立至つてゐるのですから藝者生活といふものは何んなものか、見て置きたいやうな氣もする、考へると其處が若かつたのですね▲其れならといふので近さんに連れられて桝田屋へ行きましたね、行くと私は藝者や酌が家に居る處が見たかつたのですが、桝田屋の女將さんの方がやれよねと渡りが附けてゐるのですから紅目見得といふ寸法なんでせう君かつた私の心の動くやうな其れは～毎日く綺麗な着物を着て何うの斯うのと私が心を迎へたものでしたね▲此の當時は烏森はまれは全盛なものでつな子さんゐり子さんなどが一流の流行妓で賣を盡してゐたものでしたんな▲尤も先方やれ目見得が知らませんが、私は家を見に行つてから、追駆けて桝田屋からは使がきたり、是非く抱ねたい、あの女は氣に入つたといふ事でしたさうです、私も桝田屋の派手な賑やか可笑しさうな家中と見てからは、心が動くともなく藝者になつて見やうと、ツイ浮氣ちやつたでせうが髪を極めまして忘れもせぬ明治廿五年の押詰つた暮の廿八日に愈々桝田屋へ私お行つて了つた▲素普通のならでも皆な素人の私のやうなのは見習と早くといふので、明けて廿六年の七草に、私はもう披露目をして了つたといふ手廻しの好い話になつて了つたさ▲さあ斯う藝者にな

りはなりましたもの～對州の方は勿論の事、二長町のれ邸の方に當時の親成の者だとか、四方八方へ内密なんでせう、たよねはれよねで、れつぎは何うしたと人に尋ねられても行方が知れないとか好い加減な事を云つて其の場くを濁してゐるといふ有様なのです成が大變な事がれつ始じまつたと云ふは貴方も御存じのアノ半井桃水さんも對州の出身で、私なぞも親しく附合ひになつてゐますが、或日の事でした、半井さんの妹さんのれかうさんが、私が藝者になつてゐるのを見附けたので、さあ事が大變な事になりましたのよ。

婦人科醫の非行

▽ドクトルにも此樣のがある……油斷は大敵

全体婦人科醫員の素行は修まらぬが多く常に物議の種を蒔くと云ふ其の歎きても余りあることは其の御多分に洩れぬ當地婦人科醫に北米倉町に長屋門嚴しく京城婦人病院の看板上げたるは知る人ぞ知る病院婦人科擔當醫ドクトルメヂチーネ、ゲルマニツク獨逸帝國醫學士會員英國婦人科學會東洋委員とくれば一息には讀み切れぬ肩書の所有者工藤武城其人なり生れは熊本縣玉名郡の片田舍にて或る地の學校を卒業すると共に何所をか洋行しドクメチニツクの學位を取り得て歸朝後間もなく東京の名醫駿河臺なる濱田玄達氏經營の婦人病院に助手として住み込みたるが貴公子然たる容貌のハイカラ仕立なると心にもなき猫撫聲に思家内の氣受けもよく條には出來ん獨逸語も英語程には人の知らんを幸に擴げ立てたる大風呂敷に包まれし人の内の何某と云ふが抜けが巧言令色に醉ッ拂ひ男爵金子堅太郎氏の令嬢を嫁に何うだか持ち込みたるに何條異議あるべき縁合容色は二の町にせよ少々智惠は不足にせよ男爵とあれば結構と胸に彈いた算盤玉發展承知とあるに乘より持ち込んだ先方に異議のあらう筈なく目出度合巹の式を擧げたるが此れより前武城氏には同院の看護婦にて美貌群を抜ける梶谷もとと云ふ可愛いのと切つても切れぬ契約ありしより成婚後は家庭に波瀾の絶ゆ間無かりき、兎角する間に武城氏は濱田院長の紹介にて漢城病院に雇聘せられしより此れ幸ひと醜婦のれもとを看護婦として同院に住み込ましめ誰れに遠慮もなく公々然と巫山戯散らすてその目に餘る事も度々なりしより同僚の誰れ彼れ一再ならず忠告したるも聞き入れず果ては左樣なら辭職する迄さ後足で砂を蹴り知己に縋りて資本を引き出し前記の所へ大招牌を上げたる後はれもとは澄して夫人氣取り武城君は大家氣取り日曜は研究日だから診察せぬなぞと表を飾つて置いて實は夜な夜な貴婦人令嬢を訪問し御手前物の講釋から妙な所へ引つ張り落し云ふに言はれぬ療治に從事し居るのなり而して氏が外來患者の患部を診察するや他人の在否に關係なく何所でも關はず引ん抱くると云ふ無禮至極の振舞もあり然れば同氏の診察を受けたるものは二度と同家の門を潜らずとぞ醜行何日迄か東都に通せざるべき此れを耳にしたる金子家にては捨て置きては家門の汚れ實否檢分旁々令夫人を監督として渡韓せしむべしとの通知ありたるより武城氏の狼狽一方ならずれもとは既に歸國せしめたりと稱し近所の温突に潜ませて夫人渡韓防遏策に余念なきが茲に飛んだ飛沫を受けたるはれもと退邸後の同家の下女看護婦にて夜もオチ〜眠られずサルマタ掛けで警戒中とは困つた醫者殿哉

●紙幣に藝妓の顔　仁川京町二丁目米穀商片岡榮吉方に一昨日午後五時頃住所姓名不詳の一韓人入り來り十圓紙幣を出だして細かくして呉れとの事に榮吉は何氣なく其紙幣を手に取りて見たるに巧くも似せたり居は彼の東京パック社の發行に係る赤阪藝妓萬龍の寫眞を刷り込みある模造紙幣なりしより嚴しく其の出所を詰りたるに件の韓人は顔色を蒼白に變へ何れ共なくひたら走りに蹤跡を晦ませしかば其旨仁川署に訴出でしが油斷のならぬ世の中



女振り

中の新地は　梅の家女將

本名は野村つねと云ふ、姓の野村は彼れが所謂れ父ッあんなる御亭主梅さんの姓を冒して居るのである、前身は横濱眞金町の娼妓で、梅さんの前身は横濱の箱師で各商館に出入りして一時は頗る盛んであつたのだ、と迄聞いたら其の後の經緯は明白であらう、渡韓したのは三十九年の七月か八月で渡韓匆々西小門通りに横濱亭と云ふのを開業してれつね夫人盛んに采配を振つて見たが娼勢日に衰へ持つて來た金は耗つて高利の金迄借りる程に成つた、此所に至つて彼れの心機は一轉して安賣大勉强と出掛けた、此の商略美事圖星に當つて本町一丁目に支店をさへ持つ樣になつた、中の新地が開ける同所へ移轉する、本支店を合併する、勿論多少の遣り繰はあらうが今日の娼勢を馴致し來つた手腕は豪いものである話は跡へ戻るが渡韓後間もなく梅さん識にも耻ぢずチン〜を起して乃物三昧をした事がある、其の名殘は同女の左の手首に止まつて居る、男は我儘の者で其癖梅さんは妾を持つて居る、現に梅の家を支配してるのが夫れだが、實權は溫突のれ女將さんたるつね君の手に握られてることは無論だ、年はモウ三十四五だらうが嫌になる程若く粧るから二十七八としか見ねぬ、隨分の與運だが先妻の子には實に善くする斷る迄もないが梅さんの後妻だ。何と云つても左の腕の文身が承知しねよ。

●可愛相な小高　仁川敷島遊廓日進樓の小高は疊に實母の病氣危篤の旨電報に接したれば死に際に一度逢ひたしてたもと泣くが如くに樓主に賴みたれど血の氣なき樓主は之を許さゞる内死亡したとの飛報に接し今は猶豫ならじと其筋の厄介を受け一昨日鄉里なる廣島に向け歸省したとなん

●仁川善哉會例會　仁川善哉會にては來る十六日午後六時より八坂樓に於て例會を開く筈なるが我れと思はん甘黨の會員は朝鮮日日仁川支局翠湖子に申込まるべしと

●優珍夏菊苗分與　信濃國下高井郡延德村北部の梅松辰春氏に於ては各地の菊會に優賞を得たる大々輪咲を始め最も優秀種類數百種を培養し置き同好者には荷造送費實費三十錢を送附せば●●●●●高砂、日洋黄、旭空、白干輪、赤大輪咲のみ五色五本一組として直に送苗す又秋菊苗望み人は同三十五錢を送らば優珍五色五本一組を送苗す尚以上希望者は右の割合に何組なり共注文に應ずる由なり

市井雜聞

●亂暴　近衛步兵柳水植(二六)外三名は十三日午後南部美洞の酒店金方にて同人妻尹桃花を毆打し出張警官に喰附く

●人違　北部觀光坊碧洞居金益相は妻の家出は李召史なる者の誘拐と誤解し西部署に訴へ出で大目玉と妻とを頂戴

●勘違　本町四前田彌九郎は女髪結道成タケに對する家賃支拂請求の訴訟を寧洞分遣所に提起したが不受理は當然

●喧嘩　櫻井町住左官田中利吉は大和町にて本町九親美喜一郎は新町にて韓人を撲つた代りに寧洞分遣所で大目玉

●説諭　明治町一京城組挽子長岡鶴松は理髪舗前で韓人と突當つたとか當らぬとかで喧嘩を初め南部署に引致說諭

●捜索　本町四織居商店員山川喜平は生命より大切の女房はつ(三七)に逃げ出され行衛か知れねば死に弁と南部署へ

●無錢　寺洞居金完奎は同洞酒商崔方にて二圓二十六錢と仰り付けた跡で錢が無いと亂暴し中部署に引致の上說諭

●持逃　西部盤松坊裵廷雲は同所尾洞尹應周より三百圓の爲替を委托されたのを引つ掴んで逃げ失せたとは太い奴

龍山雜事

▲賭博　十三日午後龍山元町四丁目ブリキ職山内金太郎方に同人妻すい板倉町廣本なみ本町福井元藏同町永岡小太郎祝町辻安五郎京城本町古竹まさの七名が賭博の眞最中警官に踏込まれて珠數繋ぎ▲誘拐　仁川西洞居林雲學夫婦及長子の三人は龍山桃花洞外契林社主夫婦と共謀し桃花洞内契髙明植の養女林枝(十五)を誘拐し客月二十六日仁川に到り本月九日雲學夫婦は林枝を伴ひ同女を妓生に賣り飛ばさんと黄海道白川郡差して出發せし由養父高商房が訴へに依り目下其筋にて手當中▲縊死　十三日午後十時頃本町三丁目四十五番戸雜貨商吉田與會松(三十)は自宅にて縊死を遂げたり原因は商業に失敗せし爲め苦にして氣が變になりし爲め▲竊盜　愛知縣西春日井郡淸洲町生れ當時龍山漢江通三丁目居住林信行(三十)は以前第六師團酒保に雇はれ居たることあるより時々管理人高野某を訪れ居りしが序を以て三月十日同十八日四月三日の三度に巻烟草六函外數點代金百六十圓餘を竊取し桃山踊鬼樓の奴に注ぎ込みたること發覺して龍山署に取押られたり

目と耳

▲木村猛夫　同優は先年壽座に來りて大成効を奏したるが今回當時の仕打坂本の手にて再び渡韓し十二日より一週間釜山座に於て興行し夫れより當地に乘込む可しと云ふ

▲京城座　は久しく休業中なりし伊井一座も再び出勤し大分顔揃ひとなりたれば中々好人氣なりと尚は今十五日の狂言は不如歸にして配役は左の如し　陸軍中將片岡毅(伊井)馬丁仙吉(千葉)川島家々令田崎(川崎)加藤子爵夫人しげ子、山木下女たけ(桂木)片岡母れいく、山木娘れとよ(金澤)乳母(高山)陸軍中尉千々岩安彦(高島)入夫人とし子(田中)御用商人山木兵藏夫、船頭(宇津川)片岡書生木村、藥局生林(瀬海)海軍少尉川島武夫(浮田)高利貸樋口傳兵、片岡家令(眞部)片岡浪子後川島なみ子(小西)川島書生橋本(秋月)看護婦梶山しげ(三好)川島老母けい子(湘川)片岡毅一子役小伊井)片岡みよ子(小高)

今日の運勢

四月十五日舊三月五日五黄●先勝庚戌破△一白　不利を招き易し新事及變更の事●凶尙旅行轉住を忌むべし△二黒　婚姻共同組合連盟に良好其他平凡とす●三碧　間違起り易し愼重たるべし金融に關する業務に尤も凶△四綠　不得要領の日なり新事見合せの事尙旅行談判等効なし△五黄　投機的射倖的行爲を禁ず概して不安の日なり△六白　快欣の日なり大抵吉但し家庭内の事煩累あらん△七赤　利金又は援助を得るあり婚約を結び入學門等吉△八白　遲疑して失却ある勿れ保證世話事を忌む其他平凡△九紫　概して成効の日創業開店幸先好し宴會祝典には紛擾なきよう注意すべし

●天氣豫報（自十四日午後六時至十五日午後六時）（本町五丁目三一館判斷）

東の風少雨

十三日（華氏）　最高溫度　五九、五　最低溫度　三六、九




CLUB TOILET WHITE CREAM
クラブ白粉
CLUB OSHIROI

